

## 第4回「2040 年に向けた我が国金融資本市場のビジョンについての懇談会」ご議論いただきたい事項

2026 年9月9日

1. 東京証券取引所からのプレゼンテーションを踏まえ、2040 年の我が国金融資本市場に関し、日本企業への投資の魅力向上の観点で、例えば、以下のような点についてどう考えるか。
  - (1) 市場改革やガバナンス改革などにより、日本の上場企業においては、資本コストを意識した経営や投資家との対話の浸透といった面で、どの程度、変化・進捗が見られていると考えてよいか。
  - (2) 今後、更に進めて、例えば成長投資の実現等を通じ、上場企業の中長期的な企業価値の向上を確実なものとするためには、証券業界としてどのような対応・取組みが考えられるか。
2. 事務局からのプレゼンテーションを踏まえ、2040 年の我が国金融資本市場に関し、家計の資産運用の観点から、例えば、以下のような点についてどう考えるか。
  - (1) 現在、NISA 等の施策によって、家計による上場株式や投資信託の保有が進む一方で、公社債の保有は長期的に減少している。家計の資産形成には、ライフステージやリスク許容度に応じて、これらの金融資産を適切に組み合わせることが有益であるが、金利ある世界への回帰を踏まえ、家計のポートフォリオにおいて公社債をどのように位置付け、証券業界としてどのような取組みを行うべきか。
  - (2) 「貯蓄から投資へ」を更に進めるにあたって、『貯蓄から投資へ』のさらなる促進にあたっての論点整理』における論点①～③の「まとめ」の内容は、おおむね妥当と考えるか。また、他に留意すべき点はあるか。
    - 論点① 「貯蓄から投資へ」の意義（7頁）
    - 論点② 資産格差・所得格差（15 頁）
    - 論点③ リスクマネーの海外流出等（21 頁）

以 上